

- 第1回対話(2016年2月)及びTICAD VI以降のフードバリューチェーン(FVC)構築や栄養改善、水産分野(ブルーエコノミー)の両国政府・民間企業等による取組を確認。
- 来年開催されるTICAD 7も念頭に、FVC、栄養改善及び水産分野に関し、今後両国の官民が協力して取り組んでいく方向性を議論し、確認。
- JICAケニア事務所長より、本年5月に派遣された山田駐日ケニア大使シニアアドバイザーを紹介、ケニア側から山田アドバイザーの活躍への期待が寄せられた。

【開催日・場所】 2018年7月13日(金)、ケニア・ナイロビ

【参加者】 両国官民合計で約85名

【日本側主な出席者】

農林水産省(池淵大臣官房審議官)、植澤ケニア大使、佐野JICAケニア事務所長、坂IFNAチーフオフィシャル、13社の日系企業関係者(豊田通商、サラヤ、クボタ、ライフビジネスウェザー、AmoebaX、日本通運、Kenya Fruits Solutions、Africa Accounting Advisory Ltd.、TMI総合法律事務所、KAI Global Ltd.、三井物産、三菱商事、丸紅)。

【ケニア側出席者】

トウイルーム農業・灌漑省副長官(副大臣級)、ハトール農業・灌漑省次官、他省関係者、JICA村上農業政策アドバイザー、山田駐ケニア大使シニアアドバイザー、Safaricom及びMiyonga Fresh Greens等の企業関係者等

【主な議題】

- ・ケニアにおけるFVC構築に向けたケニア側の取組
(郡政府代表、ケニア基準局、ケニア投資局、Safaricom、Miyonga Fresh)
- ・ケニアにおけるFVC構築に向けた日本側の取組
(池淵大臣官房審議官、山田シニアアドバイザー、豊田通商、サラヤ等)
- ・食料及び栄養安全保障
- ・ブルーエコノミー(海洋の持続的利用)



日ケニア農業協力対話(ケニア・ナイロビ)